

平成30年 上半期
火災・救急統計

松山市消防局

目 次

第1	火災の概況	1
1	火災件数	1
2	火災による損害	1
3	死傷者数	1
4	出火原因別の火災発生状況	2
5	損害額	3
6	近年の火災状況	3
7	地区別の件数と出火率	4
8	地区別件数の推移	5
9	住宅用火災警報器の奏功事例	6
第2	救急の概況	7
1	救急出場件数・搬送人員の状況	7
2	医療機関別搬送状況	8
3	事故種別・傷病程度別搬送人員の状況	8
4	応急処置実施状況	9
5	地区別救急発生状況	10

火

災

第1 火災の概況

松山市での平成30年上半期（1月～6月）の火災概況は、火災件数61件、損害額6,475万3千円、死者5人、負傷者14人となっています。

1 火災件数

平成30年上半期（1月～6月）の出火件数は61件で、前年同期（82件）と比べて21件減少しています。

（▲は減少）

		平成30年	平成29年	前年同期比
総火災件数		61	82	▲ 21
種別	建物火災 (住宅火災)	49 (21)	48 (28)	1 ▲ (7)
	車両火災	4	7	▲ 3
	林野火災	1	1	0
	船舶火災	0	0	0
	航空機火災	0	0	0
	その他の火災	7	26	▲ 19

※その他の火災とは、田畑や河川敷の枯草、屋外に放置された物件等が燃えた火災をいいます。

2 火災による損害

平成30年上半期（1月～6月）の火災による損害の状況は次表のとおりです。

（▲は減少）

	平成30年	平成29年	前年同期比
焼損棟数	75	63	12
り災世帯数	39	49	▲ 10
建物焼損床面積 (㎡)	1,095	1,012	83
建物焼損表面積 (㎡)	329	341	▲ 12
林野焼損面積 (a)	24	1	23
損害額 (千円)	64,753	36,511	28,242

3 死傷者数

平成30年上半期（1月～6月）の火災による死者は5人で、前年同期（4人）と比べて1人増加しています。また、火災による負傷者は14人で、前年同期（19人）と比べて5人減少しています。

（▲は減少）

	平成30年	平成29年	前年同期比
死者	5	4	1
負傷者	14	19	▲ 5

4 出火原因別の火災発生状況

平成30年上半年(1月～6月)の火災61件を出火原因別にみますと、「こんろ」が10件(16.4%)、「放火の疑い」が8件(13.1%)、「たばこ」、「たき火」、「放火」が5件(8.2%)の順となっています。

また、「放火火災」は13件で全体の21.3%を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

(▲は減少)

	平成30年	平成29年	前年同期比
こ ん ろ	10	11	▲ 1
放 火 の 疑 い	8	5	3
た ば こ	5	13	▲ 8
た き 火	5	13	▲ 8
放 火	5	5	0
ス ト ー ブ	2	2	0
電 気 機 器	2	0	2
溶 接 機 ・ 切 断 機	2	0	2
火 あ そ び	1	4	▲ 3
配 線 器 具	1	2	▲ 1
風 呂 か ま ど	1	1	0
取 灰	1	0	1
電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線	0	2	▲ 2
内 燃 機 関	0	1	▲ 1
マ ッ チ ・ ラ イ タ ー	0	1	▲ 1
焼 却 炉	0	1	▲ 1
排 気 管	0	1	▲ 1
灯 火	0	1	▲ 1
そ の 他	9	7	2
不 明 ・ 調 査 中	9	12	▲ 3
合 計	61	82	▲ 21

5 損害額

平成30年上半期（1月～6月）の火災による損害額は6,475万3千円で、前年同期（3,651万1千円）と比べて2,824万2千円増加しています。

（▲は減少）

	平成30年 (千円)	平成29年 (千円)	前年同期比 (千円)
損害額	64,753	36,511	28,242
建物	62,813	29,825	32,988
車両	1,246	6,189	▲ 4,943
船舶	0	0	0
林野	0	0	0
航空機	0	0	0
その他	694	432	262
爆発	0	65	▲ 65

6 近年の火災状況

近年の上半期（1月～6月）の火災状況は次表のとおりです。

	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年	平均
火災件数 (件)	61	82	62	66	93	72.8
焼損棟数 (棟)	75	63	74	76	102	78.0
死者 (人)	5	4	5	3	7	4.8
負傷者 (人)	14	19	12	10	35	18.0
り災世帯数 (世帯)	39	49	50	50	81	53.8
り災人員 (人)	84	80	110	115	182	114.2
損害額 (千円)	64,753	36,511	68,724	111,652	111,814	78,691

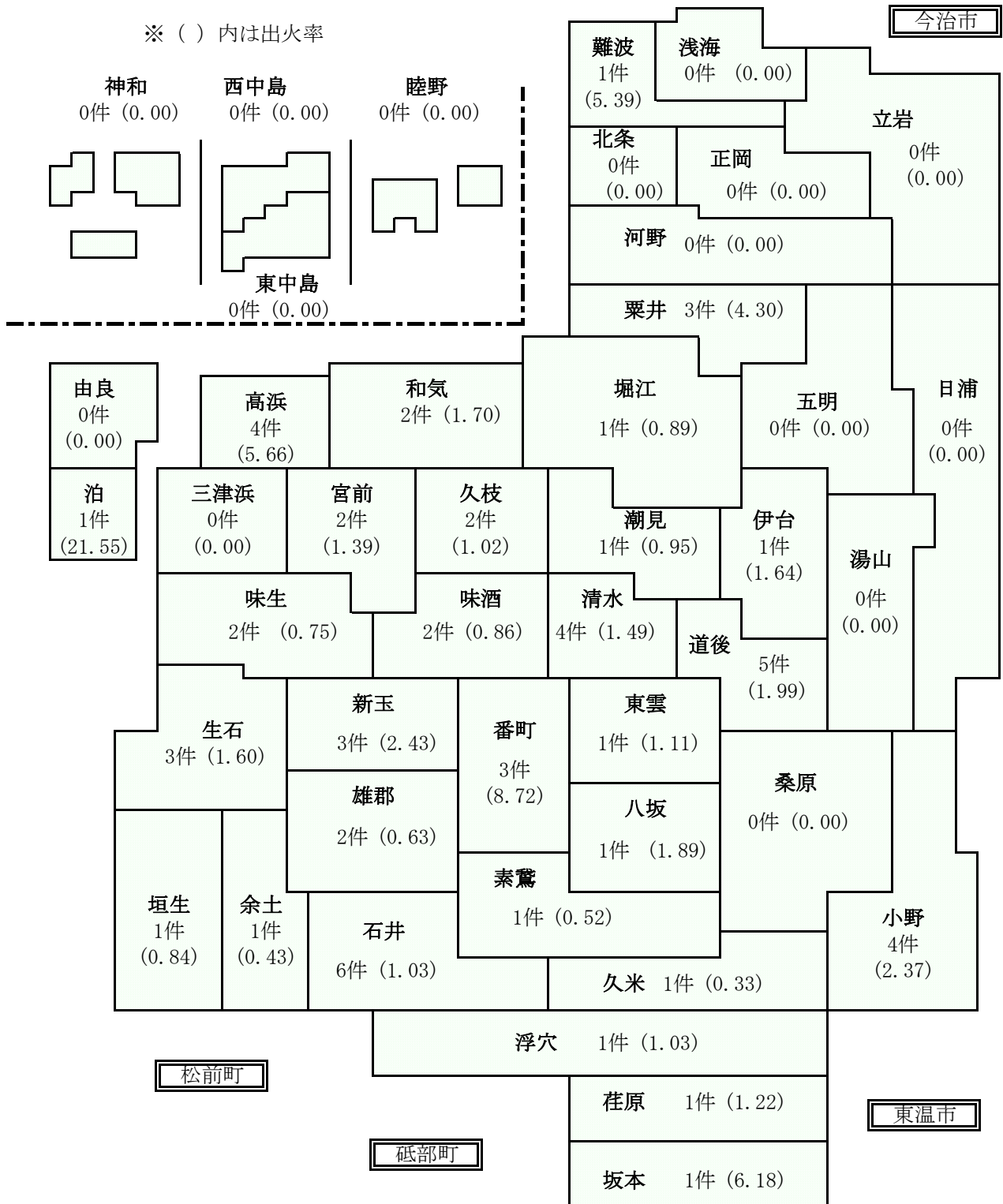
7 地区別の件数と出火率

火災件数を地区別にみると、石井が6件で最も多く、次いで道後5件、清水・高浜・小野が4件となっています。

出火率を地区別にみると（松山市平均1.19）、泊が21.55で最も多く、次いで番町が8.72、坂本が6.18、高浜が5.66、難波が5.39となっています。

※出火率とは、人口1万人当たりの火災件数をいいます。（平成30年上半年期）

※（ ）内は出火率



8 地区別件数の推移

(各年上半期)

	平成30年	平成29年	平成28年	平成27年	平成26年
番町	3	2	2	4	3
東雲	1	2	0	1	4
八坂	1	3	0	0	2
素鷲	1	6	0	2	8
雄郡	2	6	5	5	6
新玉	3	3	0	4	6
味酒	2	3	2	1	6
清水	4	7	5	5	2
桑原	0	1	3	0	3
道後	5	6	4	5	3
味生	2	1	2	3	3
生石	3	3	4	3	2
垣生	1	3	1	1	1
宮前	2	0	1	0	1
三津浜	0	0	0	0	1
高浜	4	0	1	2	1
久枝	2	1	3	0	2
潮見	1	1	3	1	3
和気	2	3	1	4	0
堀江	1	3	1	1	1
余土	1	1	3	0	3
由良	0	0	0	0	1
泊	1	1	0	0	0
久米	1	1	2	0	4
湯山	0	2	0	1	3
日浦	0	0	0	2	0
伊台	1	0	0	1	1
五明	0	0	0	1	0
小野	4	2	1	3	2
浮穴	1	3	2	1	1
石井	6	2	7	2	7
荏原	1	6	1	1	2
坂本	1	1	1	1	0
浅海	0	2	1	2	1
立岩	0	1	1	0	1
難波	1	1	1	0	3
正岡	0	1	1	0	0
北条	0	1	1	4	0
河野	0	0	1	3	1
粟井	3	2	0	1	4
睦野	0	0	0	0	1
東中島	0	0	1	1	0
西中島	0	0	0	0	0
神和	0	1	0	0	0
合計	61	82	62	66	93

※松山市基準地区（44地区）

9 住宅用火災警報器の奏功事例（平成30年上半期）

【事例1】近隣住民が発見・初期消火した事例

近隣住民が、警報音に気が付いたもの。音がする方を見ると窓から白煙が出ていたため、住民に知らせに行き、周辺にいた人とバケツで初期消火したため、ぼやで済んだ。

【事例2】訪問者が発見し、初期消火につながった事例

調理のため天ぷら油を火にかけてままテレビを見ていたところ、訪問してきた親族が警報音に気付いて、火元者に知らせたもの。

すぐに炎があがっていたフライパンに鍋をかぶせ、周囲の燃えているものにはボウルで水をかけて消火したため、ぼやで済んだ。

【事例3】近隣住民が早期発見し、人命救助につながった事例

就寝中の近隣住民が、警報音に気が付いた。向かいの家の2階から白煙が出ていたので、玄関ドアを叩いたが応答なく、煙の充満がひどかったので、消防に通報した。

駆けつけた消防隊が住宅内にいた住民を救助し、一命をとりとめることができた。

【事例4】近隣住民が発見し、通報・避難誘導をした事例

マンション内の住民が、警報音と煙に気付き、携帯電話で通報しながら火元者の玄関から呼びかけを行ったため、火元者の早期避難につながったもの。

【事例5】住民が警報音に気付き、火災に至らなかった事例

鍋を火にかけてまま、他の居室でテレビを見ていたところ調理していたことを忘れてしまい、空焚き状態となったもの。警報音で空焚きに気付き、鍋を焦がしただけで火災に至らなかった。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「119番通報」をいち早く実施することができ、被害の軽減に役立ちます。

日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html>

救 急

第2 救急の概況

松山市における平成30年上半期（1～6月）の救急出場件数は12,881件、搬送人員は11,970人で、前年と比較し出場件数・搬送人員ともに増加しています。

これは、一日平均71.2件、約20分14秒に1回の割合で救急車が出場し、市民約43人に1人の割合で搬送されたこととなります。

1 救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・転院搬送・交通事故の順となっており、この4種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の約96～97%を占めています。

(▲は減少)

区分	単位	平成30年	構成比(%)	平成29年	構成比(%)	増減
出場件数	件	12,881	100.0	12,420	100.0	461
内訳	火災	50	0.4	69	0.6	▲19
	自然	1	0.0	0	0.0	1
	水難	3	0.0	12	0.1	▲9
	交通	1,178	9.1	1,292	10.4	▲114
	労災	84	0.7	60	0.5	24
	運動	89	0.7	71	0.6	18
	一般	1,738	13.5	1,644	13.2	94
	加害	56	0.4	56	0.5	0
	自損	112	0.9	135	1.1	▲23
	急病	7,996	62.1	7,699	62.0	297
	転院	1,429	11.1	1,337	10.8	92
	その他	145	1.1	45	0.4	100
搬送件数	件	11,889	-	11,415	-	474
搬送人員	人	11,970	100.0	11,528	100.0	442
内訳	火災	10	0.1	16	0.1	▲6
	自然	1	0.0	0	0.0	1
	水難	3	0.0	6	0.1	▲3
	交通	1,141	9.5	1,281	11.1	▲140
	労災	82	0.7	56	0.5	26
	運動	89	0.7	78	0.7	11
	一般	1,630	13.6	1,537	13.3	93
	加害	48	0.4	48	0.4	0
	自損	74	0.6	95	0.8	▲21
	急病	7,466	62.4	7,090	61.5	376
	転院	1,419	11.9	1,314	11.4	105
	その他	7	0.1	7	0.1	0
出場平均(1日)	件	71.2		68.6		
出場間隔		20分14秒		20分59秒		

(注1) 出場平均については、前年比1日あたり2.6件増加しています。

(注2) 出場間隔については、前年比45秒短くなっています。

(注3) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

2 医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関10,929人(91.3%)、その他の医療機関1,041人(8.7%)、その他の場所0人となっており、救急医療機関へ搬送する割合が多いです。

事故種別等 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,923	1,089	1,567	1,350	10,929
その他の医療機関	543	52	63	383	1,041
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	7,466	1,141	1,630	1,733	11,970

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(注2) 救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

3 事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡157人(1.3%)、重症750人(6.3%)、中等症4,092人(34.2%)、軽症6,971人(58.2%)、その他0人(0.0%)となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	0	0	1	3	0	0	11	0	8	133	1	157
重症	2	0	1	33	9	1	98	0	6	365	235	750
中等症	2	0	1	121	23	23	466	4	14	2,302	1,136	4,092
軽症	6	1	0	984	50	65	1,055	44	46	4,666	54	6,971
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	1	3	1,141	82	89	1,630	48	74	7,466	1,426	11,970

(注1) 構成比は、合計しても100%にならない場合があります。

(傷病程度)

死亡 初診時において、死亡が確認されたもの

重症 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽症 傷病の程度が入院を必要としないもの

その他 搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

4 応急処置実施状況

救急救命士が行える救命処置（ラリングアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、エピペン投与、ブドウ糖投与）の件数は246件（前年340件）となっています。

事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
応急処置	応急処置対象人員	7,455	1,125	1,619	1,719	11,918
	止血	20	38	101	25	184
	固定	33	225	155	44	457
	人工呼吸	13	0	1	3	17
	心マッサージ	0	0		2	2
Ⅱ	うち自動	0	0		0	0
	心肺蘇生	199	4	20	18	241
Ⅱ	うち自動	29	0	5	1	35
	酸素吸入	1,187	21	75	481	1,764
	気道確保	278	5	31	35	349
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	6	0	0	0	6
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	9	1	4	0	14
救	うちラリングアルマスク等	83	0	7	4	94
救	うち気管挿管	8	1	6	0	15
	保温	382	55	68	127	632
	被覆	33	319	438	76	866
Ⅱ	在宅療法継続	27	0	1	3	31
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	21	0	0	1	22
	静脈路確保	53	0	8	4	65
救	うち心肺停止前	4	0	0	1	5
	うち心肺停止後	49	0	8	3	60
救	薬剤投与	5	1	0	1	7
Ⅱ	血圧測定	7,015	1,100	1,520	1,620	11,255
Ⅱ	聴診器	1,102	69	105	141	1,417
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	7,222	1,117	1,577	1,670	11,586
Ⅱ	心電図	1,841	24	77	262	2,204
救	血糖測定	38	1	2	0	41
救	エピペン投与	0	0	0	0	0
救	ブドウ糖投与	2	0	0	0	2
	その他	6,293	595	1,075	1,239	9,202
合計		25,764	3,574	5,254	5,752	40,344
拡大された応急処置等		17,461	2,314	3,312	3,707	26,794
（うち救命処置）		210	3	23	10	246

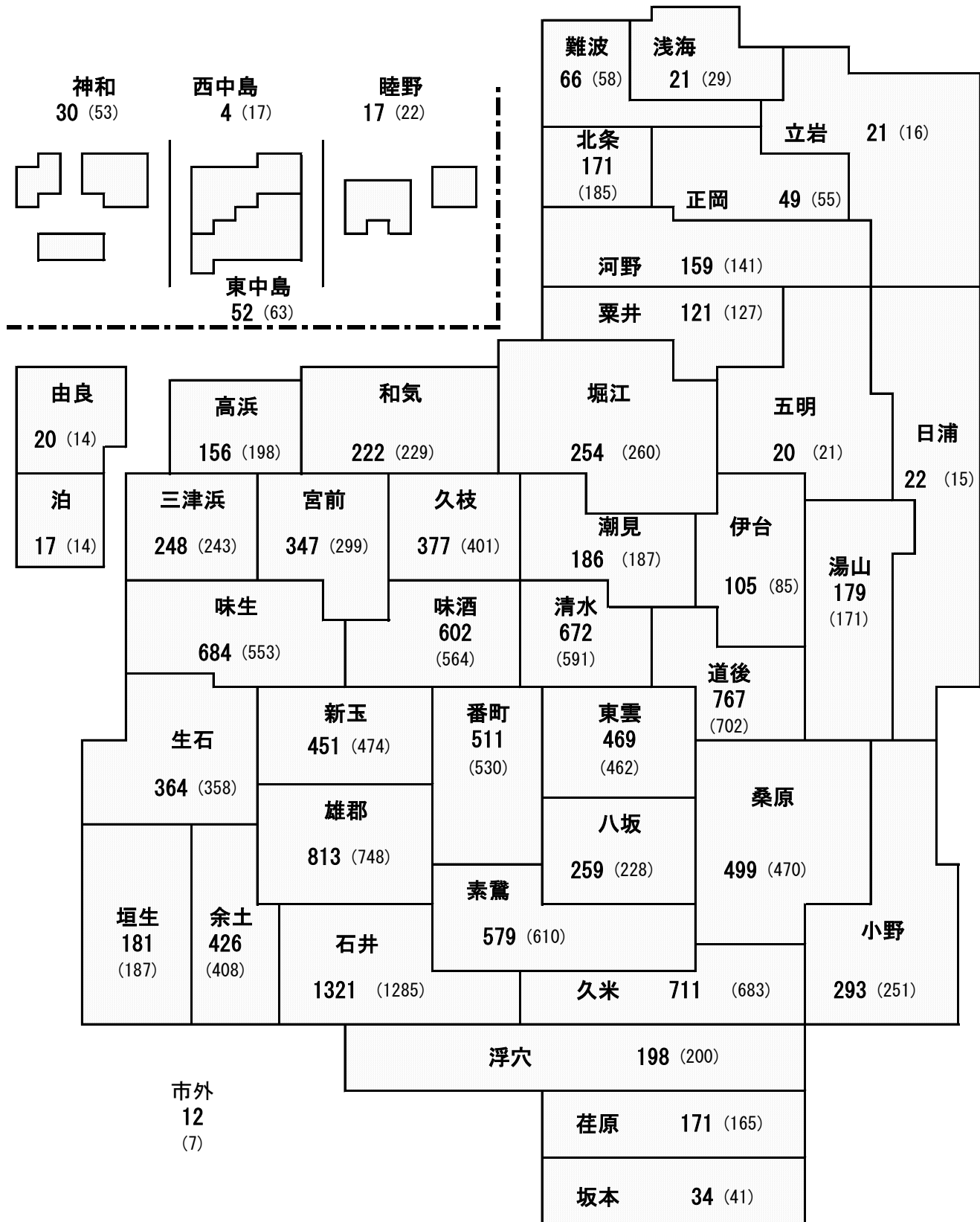
(注1)「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置

(注2)「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置

5 地区別救急発生状況

出場件数 12,881件 (前年 12,420件)

() 内は前年同期の発生状況



平成30年 上半期 火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは

松山市消防局予防課

TEL: (089)926-9247 FAX: (089)926-9163

E-mail: sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは

松山市消防局警防課

TEL: (089)926-9227 FAX: (089)926-9188

E-mail: sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成30年上半期火災・救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。

<http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html>